

公益社団法人  
中部日本書道会

# 濃飛

濃飛支部会報  
第11号  
●発行●  
令和4年2月  
濃飛支部広報部  
電話 0573-28-1437  
●印刷●  
(株)協和印刷工業  
電話 0573-66-3788  
題字 故永冶秋聲

## 書の本質について

濃飛支部長 三野島 凌雲



令和三年は、新型コロナウイルス感染症蔓延の中、なんとか二年ぶりの第三十五回支部展が高山市で開催できましたが、その他の行事は中止という異常事態が続きました。

来る七月には第三十六回支部展を恵那市で開催予定となっております。引き続き会員及び新会員も加えながら書の魅力発信に努める所存ですが、新型コロナウイルス感染症から一日も早い収束を念じています。

本題に入り、書の本質について述べさせていただきます。

書譜に「偶然書せんと欲す」という言葉があります。この言葉は、よい書が生まれるのにいろいろな条件や立場があります。心や手や感情が急に動いて「ああ、あの句を書いてみよう」とさっと筆をとって書いた時、会心の作が生れます」と述べています。このことは、深く広い書技術を持ちながら、それらを一切忘却した世界での書業こそが、内側から我を画くことになり、最も高度の創作活動と言われる所以で

あります。

「書はまさしく心の画なり」と、線の質の逞しき、野生を追求し、強い線につながるには「心手一如」が筆力の高い作品創作には重要だと考えています。

このことから、書写と書の原理を十分にわきまえて、芸術は自由な自己の表現の視点から、古法帖・古典を生かして幅広い表現（自己の書風）の確立を行うことが大切と考えています。さらに、自ら線を鍛え直すためには、繰り返し臨書により古典との格闘が必要と考えています。

一方、書人としても名高い山岡鉄舟は、幕末・明治の剣士で政治家。維新の功労者で、新政府で明治天皇の侍従となつていますが、大悟した時、「電光影裏斬春風」の句を残しています。何事にも動じない姿を表わす句です。この無我の境地で書作に望むことも必要と考えています。

各会員におかれましては、自分のペースで書の振興に向けてご尽力をよろしくお願ひします。

最後になりますが、今年も、会員の皆様には支部活動の推進にご理解・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 第三十五回濃飛支部展

会期 七月三十日(金)～八月一日(日)  
会場 高山市民文化会館 大講堂  
出品点数 七十点  
賛助出品 四点

今年度の支部展は、飛騨高山での開催となり、延べ計三百五十名の来訪がありました。

本部より理事長伊藤仙游先生、副理事長岡野楠亭先生、副理事長加藤裕先生、副理事長松下英風先生の賛助出品も加え、支部長の大作や会員の力作など、来訪者から多種多様な作品にご指導・鞭撻をいただきました。



## 濃飛支部総会

日時 八月一日(日)  
会場 高山市民文化会館 会議室

支部展三日目の午後一時三十分より会議室にて、理事長伊藤仙游先生、副理事長加藤裕先生の御臨席をいただき役員他三十名、委任状出席含め計四十二名の参加で行いました。

令和二年度事業報告、収支決算報告、監査報告、次に令和三年度支部役員を三野島凌雲支部長他、令和三年度の事業計画案、収支予算案が提案され、いづれも承認されました。コロナ禍の動向を注視し、書の基礎体力を維持しつ

つ、古典との格闘など会員各々の書道鍛錬を怠らず、邁進することを確認し合いました。

## 濃飛支部講演会

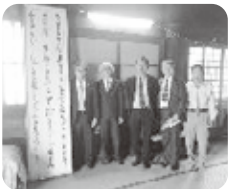
日時 八月一日(日)  
会場 高山市民文化会館 会議室  
講師 中部日本書道会理事長  
伊藤仙游先生

演題 書と私と王鐸

引き続き、午後二時三十分より午後四時まで、総会と同会場にて、講師の中部日本書道会理事長の伊藤仙游先生より、演題を「書と私と王鐸」として、会員や一般の方三十五名に、「王鐸」との出会いや「王鐸」のすがたから、秀でた作品を生むためには、書の最高水準についての確固たる信念・認識が、作品への感銘につながるとして、先生の「書と私」の講演は、大変貴重な講演となりました。さらに、二点の行草作品の実演も行われました。



※講演に先立ち、講師と市内の飛騨随一の古刹、「飛騨国分寺」を訪問し、講師の父・日展書家の伊藤天游先生がご寄贈された「高山雑詩」の日展作品を拝見いたし、お参りをさせていただきます。



### 第三十五回 濃飛支部展を終えて

阪田 華香

昨年度は、コロナウイルスが蔓延して、やむを得ず中止となってしまった支部展が、今年度はいまだコロナ禍ですが緊急事態宣言が解除された高山市で開催された事は、喜ばしい事でした。三日間、晴天にも恵まれ、多くの来場者が本部からの賛助作品をはじめ出品作品を一点一点見られているのが印象的でした。

会場が広く全体が見渡せたのは良かったのですが、作品数の割には少し広い様に思われ、出品数を考慮した展示方法も必要だと思いました。

今回は本部より伊藤仙游理事長をお招きし予定時間を超過する程、貴重なご講演を拝聴させて頂き、書に対する意欲を高めてはと再確認いたしました。

事前準備・設営など業者の方々はもちろん会員の皆さんの多大な協力があったからこそ改めて感じさせられました。会場が高山市という事で、東濃方面から参加された会員の皆さんにとって遠方でしたので、開催会場も課題の一つだと思いました。

支部展運営のため、会員全員が一体となつて高いモチベーションを持ち、益々盛り上げられたらと思います。次回は恵那市で開催予定です。早くコロナが収束する事を願うばかりです。

### 故森京華先生を偲んで

今井 晴美

下呂市がまだ下呂町だった平成の初め頃、町の家庭教育学級、今で言えば生涯学習とでも言いましょうか、その講座を受けたのが私が書道に係わるはじまりでした。一年の講座が終わってもう少し続けたいと言われる有志の方から声をかけて頂きました。そんな時、森先生が地元門和佐出身でしたので講師にお願いしたので。あれから三十年、一ヶ月三回の教室を先生はほとんど休まれる事なく一生懸命でした。食事会や、クリスマス会又濃飛支部に入会させて頂き皆



さんとの交流も、先生がおられたからの事でした。まだまだ教えを乞いたかったのに、唯唯感謝の一言です。御冥福をお祈り致します。

### 先生の教えを胸に 皆で筆を執ります

田口 紅苑

京華先生ありがとう御座居ました。三十年：田舎のまがりくねった道を雨の日、雪の日、夏の暑い時、毎月来て下さいました。おいしいお菓子を持つて：

教室では、皆真剣、でも和気あいあい練習しました。先生に駄目出しをもらって書き直してもやさしく、わか

りやすく教えて下さいました。お茶の時間は又々楽しみな時間で、世間話に花が咲きました。

又先生は、花が好きでアジサイ等色々を株分けして下さい、家で大切に育てています。



旅行に、食事会、楽しい事ばかり思い出されます。おしゃれで、いつも変わらずあこがれでした。先生の教えを胸に皆で筆を執ります。

### 第七十回中日書道展 入賞者

- |     |       |
|-----|-------|
| 記念賞 | 倉地 西萩 |
| 花賞  | 林 幸湖  |
| 桜賞  | 市川 純慧 |
| 特選  | 安藤 朱游 |
| 特選  | 磯村 小園 |
| 特選  | 工藤 雅翠 |
| 特選  | 小木曾美空 |
| 秀   | 阪田 華香 |
| 秀   | 成瀬 仲芳 |
| 秀   | 渡辺 敬月 |
| 秀   | 田中 凌山 |
| 秀   | 長谷川鳳聲 |

### 記念賞 受賞者 記念賞を受賞して

倉地 西萩

突然の「祝電です」という朗報に「誰の?」「何の?」と思いました。

「中日展記念賞受賞」まさかと思いましたが。すぐに仙童先生に連絡し、先生も喜んでくださいました。

書にむかう際、折角書くのだから、かつこ良い作品を書こうという気持ちはいつもありました。特に墨量・余白の取り方・にじみ・かすれ・文字の大小試行錯誤し、納得のいく作品を仕上げます。仕事もしているので限られた時間に集中して書き込みます。今回の受賞こそ「継続こそ力なり」だと思っても嬉しいのです。

これからも作品を書きながら、若者が書を引き継いでくれることを期待し、手書き文字が薄れていく現代だからこそ、書は貴重でなければならぬと痛感します。



### 記念賞 受賞者 記念賞を受賞して

林 幸湖

新型コロナウイルスの感染が世界中に拡がり、尚その不安と恐怖に揺れる中、本展に於いての思わぬ御褒美をいただき大変申し訳なく感じます。

思えば中津川の教室を守る諸先輩の方々、それから名古屋から何度も御指導に来ていただいた後藤啓太先生と奥様。それに中日書道展開催の為の役員やスタッフの方々、そして濃飛支部を運営された、高山、下呂、恵那、中津川の皆様のコロナ禍に負けじと頑張つてこられた方が集まっつての展覧会であり賞であったと思います。そんな中で

私は好きな歌を作品に二年かかって書けた事に、この山上憶良の「貧窮問答歌」は中学の時から心に沁みる歌であり、魂を揺さぶられる歌でありました。

故永治秋聲先生の「死ぬまで書けよ」の言葉に励まされ、八十歳を過ぎても、コロナ禍で家に居る時間が長かっただけ時間を有効に使えたのかも思っています。二年続けて同じ作品を書く事はありませんでしたが、下手なりに倍近く書いた事が少しは上達し、それに憶良の歌の力が加わり評価して下さったのかと思っております。何はともあれ大変な時代に名誉な事と喜び感謝し、深くお礼申し上げます。本当に有難うございました。



第三十回  
中日書道会  
寿展 出品者



中川 貴舟  
中垣 幸聲

第七十三回道風展  
入賞者

- 遺跡保存会賞 磯村 小園  
奨励賞 熊崎 明雪  
特選 成瀬 仲芳  
高津 華舟  
水口 雲峰

毎日書道展  
入選者

- 入選 石原 聲風  
齊藤 千秋  
西 恵香  
田口 秋水  
中垣 幸聲  
林 幸湖  
長谷川秋峯  
増田 春暉

読売書道展  
入賞入選者

- 秀逸 佐野 麦静  
入選 阪田 華香  
田中 凌山  
長谷川鳳聲

恵那市民展入賞者

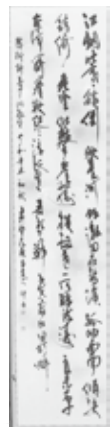
市展賞 受賞者  
市展賞を受賞して  
成瀬 伸芳

このたび、恵那市美術展に於いて市展賞をいただき大変嬉しく思っております。

これまで多くの師との出会い、ご指導を仰ぎ学んできましたが、やっと今頃大きな作品が書けるようになってきたかなと思うこの頃です。この受賞は、諸先生のご指導、ご支援の賜物と深く感謝致します。

これからは、家族の支えに感謝し、筆を持つ楽しさや書友のある人生に幸せを感じながら、少しゆつくりと学んでいきたいと考えています。

今後ともご指導の程よろしくお願致します。



市長賞 受賞者 堀 梅肇



書道研究 暢陽会、会員展  
石原 聲風

日本百名山の一つ恵那山の麓に位置します中津川市にて、第三十八回書道研究暢陽会会員展を令和三年十月二十九日より三十一日まで開催致しました。今回はテーマを「明るさを求めて」として作品作りに取り組みました。昨年は開催出来なかった会員展です。

が、本年もコロナ感染症の緊急事態が何度か出る中、開催も危ぶまりましたが、会員同士励まし合い乍ら、作品研究会を何回か開催、テーマに沿った、思いをこめた作品ができたかと思えます。作品点数約七十点となり、中津川市にぎわいプラザ五階会場に展示されました。



作品は楷行草にかな・調和体・篆書・水墨画と多様な作品に、全紙の大作も所狭しと展示され会場を賑わせました。

第五十八回永治書院教育書道連盟学生展も同時開催し、作品六十点が展示されました。

子供が自分で考えた選んだ字句を半切の用紙に思い切つて書き、力強い作品が出来上がりました。

会期中各方面から大勢の方のご高覧を戴きました。来場の方には感謝申し上げますと共に今後のご指導も合わせてお願い申し上げます。

今回は展覧会が開催出来た事が素晴らしいと感じ、会員全員にて楽しく歓談し盛況のうちに閉会致しました。



# おもてなしのいろは

## おもてなしのいろは

中垣 幸聲

今、中津川市はこの地方で住んでみたい町一番に選ばれている。

その恵那山麓、北アルプスが一望出来る高台に『照寿庵』という料亭がある。駐車場に車を停め、風光明媚、雪のアルプスを眺め深呼吸する。それから檜と茅ぶきの門に向かう。丸い門柱は北山杉、横の梁の額は夫婦松、その額に虎溪山老師手書きの料亭名が力強く書かれている。門をくぐり石畳を下ると料亭の玄関に着く。玄関正面には中津川市の工芸作家三原茂氏の七宝焼『色鯉』が「こい、こい」とお客さんを迎えてくれる。

客間中央の廊下には、熊谷守一94才の『恵那山』前田青郎『出陣』、中川とも『雪南天』等、地元有名作家の作品が展示されている。又、ダイアナ妃の着物を染めたことで知られている、染色家人間国宝羽田登喜男の西陣織の車えびの額が観る人の目を楽ませてくれる。本物の芸術作品に触れることで来客は感動する。



この本物の味、来客に喜んでもらう『おもてなし』の心は四季折々の懐石料理に通じるものがある。おいしい料理でお客さんに喜んでもらいたい。食材にこだわり体に良いものを。と休む暇もなく追求し続けている女将の食へのこだわりの姿である。

皆さんも一度訪ねてみたら？和服姿の女将が笑顔で迎えてくれますよ。

## 今、思うこと

### 八十年前：

松田 秋芳

昨年末 十二月八日、テレビ、新聞で大々的に八十年前（昭和十六年）日本が真珠湾を攻撃、第二次世界大戦勃発。小さな日本が世界相手に戦いを挑む。そして多大な犠牲を国民に強いて終えた。と報道があるのを観ました。

私も昭和十六年十月生まれで今、八十路です。何も覚えていませんが祖母父母から話は聞いていました。そして我が家でもたった一人の叔父が沖繩で戦死された事。

私が生まれる前に出征されたので一緒に暮らした事はありません。祖母や父母の悲しみは如何ばかりだったか。多くの犠牲の上に今の平和が有る事、そして書を習える事に感謝しています。

“二十六才で逝かれし叔父の  
何倍も生かされいる我  
今は八十路となる”

## 令和四年度事業計画

事業名	予定年月日(曜日)	実施・開催場所
支部展	令和4年7月29日(金)	恵那市 恵那市文化センター
	令和4年7月30日(土)	
支部総会	令和4年7月31日(日)	
講演会	令和4年7月31日(日)	
支部交流会	令和4年7月31日(日)	恵那市
企画委員会	令和4年4月	恵那市
	令和4年9月	中津川市
役員会	令和4年7月	恵那市
	令和4年11月	中津川市
研修会	令和5年1月	恵那市
	令和4年11月	恵那市
支部報12号	令和5年2月1日発行	その他

## 会員募集

書道を通して漢字や仮名を学ぶと、平安時代から現代に至るまで、人々の暮らしや思いやりの心を知ることが出来ます。

コロナ禍においても、先人の教えは心穏やかに、日常生活に小さな幸せを感じさせ、日々を大切に過ごす事が出来ます。

ご入会をお待ちしています。  
会員部より  
詳細は事務局まで。

☎〇五七二一六五一一〇二〇〇  
(担当) 工藤雅翠

## 編集後記

令和三年度もコロナの勢いは止まることを知らず益々猛威を振るっている。三密、マスク自粛を余儀なくされ、話し合い、集い、みんなで力を合わせてという事が出来なくなっている。そんな中で何とか無理やり年間行事を熟して来た感がある。

濃飛支部広報も十一号を発行することになった。昨年は十号記念号を発行し、理事長先生よりお祝の言葉と共に令和三年の道標も戴いた。しかしコロナ禍の中、人とも会えず孤独になり心や体が蝕ばまれていく事は何とも悲しい事である。昨年、陰になって濃飛支部を支えてくださった参与の森京華さんがお亡くなりになった。辛く悲しい事である。

森先生の最後の言葉  
『みんなで決めて、  
みんなでの会の運営に協力する。  
人と人の和を 大切に』

を忘れないよう心したいと思う。  
濃飛支部を益々発展させ、強固なつながりを深めるため、みんなで力を出し合い知恵を出し合いたいと思う。

(広報担当) 中垣幸聲

